第10回 みどりのまちづくり審議会 会議要旨

1 日時：令和5年9月21日（木）14時00分～16時00分

2 場所：大阪市建設局（ATCビルITM棟西側）11階会議室

3 出席者

（委員）※の委員はウェブの方法により会議に参加

赤澤宏樹委員、上野美咲委員※、加我宏之委員（会議内で会長に選出）、
清水陽子委員（欠席）、たけち博幸委員（欠席）、玉川弘子委員、豊島ひろ江委員、西
川亮委員、野上らん委員※、藤原直樹委員、前田陽子委員（欠席）、山本智子委員、吉
積巳貴委員※

（幹事）

環境局長（代理出席）、経済戦略局長（代理出席）、大阪港湾局長（代理出席）、都市整
備局長（代理出席）、計画調整局長（代理出席）、建設局長（代理出席）

（事務局）

橋本建設局理事、木下調整課長、大家調整課長代理、安藤係長

4 議題

（1）会長及び会長代理の選出

（2）諮問内容に関する事務局説明

（3）審議

【緑の基本計画の改定について】

・今後のみどりのまちづくりの方向性について

【緑化重点地区における緑化等の方針について】

・新大阪地区

・夢洲・咲州・舞洲地区

5 議事要旨

(1) 会長及び会長代理選出

〈会長選出〉

- ・事務局より、審議会の会長の選出について説明した。
- ・藤原委員より、加我委員が会長として推薦され、全会一致で承認された。

〈会長代理選出〉

- ・加我会長の指名により、赤澤委員が会長代理として選出された。

(2) 諮問内容に関する事務局説明

〈事務局より諮問内容について説明〉

- ・意見等なし

(3) 審議内容

〈事務局より今後の検討スケジュールについて説明〉

- ・意見等なし

1) 緑の基本計画の改定について

〈事務局より資料3-1, 3-2について説明〉

加我会長 資料3-2において、重要な視点として現行計画の7つの視点を踏まえ新たに7つの視点をたたき台として挙げてもらっている。これまでの審議会での社会情勢の変化、みどりに求められる役割、大阪市のみどりの強みや弱みについての過去の議論の結果と、第9回でのマトリックスの整理を踏まえたものとなっている。お気づきのところからご意見いただきたい。

吉積委員 都市災害に関して、昨今大きな影響を受けたものとして新型コロナウイルス感染症があげられる。自然災害ではないが都市災害の一つと捉えることができ、このような感染症の拡大の観点でもみどりのまちづくりが担う役割があるのではと思う。

キーワード、重要な視点のタイトル等、どのような形で取り入れるかは議論の必要があるが、感染症についても新たな視点として入れた方がいいのではと思う。

加我会長 近代都市計画の始まりは、都市部への人口集中、公害に加えて、伝染病への対応にある。近年の新型コロナ感染症も人間の健康を害するものとして災害と捉えることができ、実際に都市活動が大きな制約を受けた。それに伴い、オープンスペースの重要性、健康の維持増進の場として屋外の場の重要性が再認識された。心身の健康、ウェルビーイングへの関心の高まりと関連づけて、緑がどのような

形で寄与するのかを記載するというのも考えられる。

事務局 新型コロナウイルス感染症の広がりにより、公園やオープンスペースの重要性・心身の健康増進への寄与、そこでの活動による人と人とのつながりの創出の重要性等が再認識され、それを踏まえた形で新たな視点に整理した。
災害対策として緑をどう扱うか、ということになり、例えば、新型コロナ感染症に関しては、ソーシャルディスタンス確保への活用等が挙げられる。都市の災害としては今までにない観点であり、ご意見いただけたらと思う。

吉積委員 都市環境やエネルギーに関する視点として、低炭素から脱炭素、カーボンニュートラル等がポイントとなるが、重要な視点のタイトルでは「都市環境の改善」「エネルギー問題」のみが触れられている。また、緑のまちづくりにおいて、直接エネルギー問題に対応するというものもないと考えられる。
もっと分かりやすい言葉で示すべきであり、脱炭素、カーボンニュートラルの推進等をタイトルとして入れた方がよいと思う。

事務局 みどりが直接エネルギー問題に関わるものではない、というのはその通りであると考えている。「エネルギー問題」と書くと大きな観点となりすぎるが、一方で、脱炭素に絞って整理してよいのか、とも考えている。ぜひご意見いただきたい。

加我会長 都市環境の改善やエネルギー問題に関して、地球温暖化対策実行計画が大阪市でも策定されている。どちらかといえば吸収源対策よりも、人間の行動の改善等が主な対応として挙げられる。それらを踏まえると、緑の基本計画においてエネルギー問題への対応を挙げてよいのかは疑問もある。

赤澤委員 重要な視点の整理については、テーマごとにキーワードを広げる方向性より、それぞれ視点が開わりあっていることに留意することが重要である。また、前回の審議会においては、増田会長より「トータルの戦略となっており、対象区間別の計画になっていない」という意見があった。例えば、住区基幹公園・近隣公園のような小さな公園であれば、日常使いを高めてコミュニティを作り災害時は避難場所にする等、大規模な公園とは異なる役割がある。

それぞれの視点を並列に捉える考え方と、対象区間別の考え方の両方が必要である。

例えば、カーボンニュートラルについては、シビックプライドとも関連があると考えている。風格を高め緑陰を確保するために、緑が大きくなるように管理すれば1本あたりの炭素蓄積量が増え、結果として大阪市内における炭素の蓄積も増加することになる。これは、カーボンニュートラルとシビックプライドを並列で捉えた考え方であると同時に、対象区間として街路樹のみどりをとらえたも

のであるといえる。

赤澤委員 それぞれの視点を並列で整理することと併せて、さらなる整理の軸として、対象区間別の整理をすると議論が分かりやすくなると思う。

新たな視点として、機能の再配置が入ったのはよいことである。この視点においてはキーワードの整理が必要となる。例えば、「ウェルビーイング」は心・体・社会的な健康であり、「心身の健康」と重複する部分があり、「ウェルビーイング（心・体・社会的な健康）」等としたほうが良い。同様に、「ソーシャルキャピタル（信頼・規範・ネットワーク）」と整理できる。公園のマネジメントではルールとマナーを公園ごとの特徴に合わせて作るのが必要であり、それらは規範にもつながる。このような言葉をキーワードに補うことが必要と思われる。

玉川委員 「都市の個性や魅力の向上」に風格やシビックプライドを入れてもらったが、商工会議所としても取り組んでいるものでもあり、重要であると捉えている。

多様な主体によるまちづくりと連携したまちの価値向上に関連して、社会情勢の変化としてエリアマネジメント団体が増え活動しているのは重要であるが、これを「連携」と表現してよいのか。大阪市の視点でいえば、「連携」というより、まちづくりを「支援」するというのが、実態に即している。「主体的に活動している団体を支援する」というような表現がよいと考えられる。

また、みどりの創出・保全の展開と手法に「情報発信」を追加している。情報発信は重要であると思うが、具体的にはどのようなやり方を想定しているのか。

事務局 分かりやすい部分では、大阪市のホームページが挙げられる。現状では分かりにくく、たどり着きにくく、情報量も足りない状況である。ホームページの構造上の課題を解消したり、SNS等の情報発信ツールも活用し、市民がまちづくりの情報を知りたいときに得られる体制を整えていきたいと考えている。

加我会長 多様な主体との連携、情報発信等のいずれにも関わることであるが、緑の基本計画は全て大阪市が主体となるのか。市民が主体となる視点も必要ではないか。

事務局 緑の基本計画は行政だけでなく、市民、事業者が携わるのが重要であると考えている。行政だけでなくそれぞれの主体が関わるのが分かるように、誤解を生まないような表現にしたい。

加我会長 「多様な主体との連携」とすれば大阪市主体であるが、「多様な主体の連携」とすれば、大阪市も含めて各主体の連携を表すようになる。表現にも留意する必要がある。

ホームページが分かりやすくなることは重要である。大阪市だけでなく市民や団体が発信するのも重要であり、施策において、大阪市・市民それぞれが何を示すのかを示す必要がある。

例えば、災害の部分については公共的な部分が大きいが、「一人ひとりのいきいきとした都市生活の実現」は大阪市よりも市民の視点である。施策との関連で何をすべきかチェックしていくのがよい。

また、すべての重要な視点について、それぞれが関連しており、順番も大事であるため今後検討が必要である。

豊島委員 「一人ひとりのいきいきとした都市生活の実現」において、社会情勢の変化として子育て支援の必要性があげられているが、それだけでなく、高齢者、身体障がい者等の介護の支援も入れるべきである。高齢者等を公園に連れていくと非常に喜び、心身の健康にもつながっていく。

加我会長 公園は地域の方が落ち着く場所であり、高齢者等の視点でも重要であると考えられるため、ぜひ追記をお願いしたい。

豊島委員 情報発信の強化と関連するが、今回審議会に参加するまでこのような計画の存在を知らなかった。もっと世間に発信していくことが重要である。市民だけでなく市内の企業にも知らせていくべきであり、SNS だけでなく、広報のキャンペーンをするようなことも必要ではないか。

各企業では、脱炭素の取組がコーポレートガバナンスの観点から社会的に要請されており、このような社会情勢の変化がみどりのまちづくりを後押ししている。情報発信という一方向の取組だけでなく、個々の企業の活動と連携しながら緑のまちづくりを進めていくべきである。

加我会長 情報発信の中で、一般の方々にもキャンペーンしていくことも必要となる。日本の計画書は行政の計画としてのみ作られることが多いが、一般の方に公表していくことも踏まえ、デザインの観点も持って作成していくことが重要である。計画を推進していく上では住民を味方にする必要があるとあり、市民が見たい、というようなデザインの計画書になると良い。行政の計画書と別途、情報発信する媒体についても検討していくのが望ましい。

西川委員 情報発信を進める中で、ブランドの確立についても入れておくとよい。緑の魅力あふれる大阪を目指す中で、世界観やキャッチコピー等、市民が積極的に関わりたくなるようなブランドを確立していくとよい。

シビックプライドの醸成と関連して、高齢のボランティアだけでなく、小・中・高校などの若い世代の担い手育成にも取り組んでいくと良い。主婦等も含め、若い世代がまちづくりに関わる仕組み作りが必要であり、シビックプライドを醸成する施策の検討が求められる。

パークファン事業のサイトを初めて見させていただいたが、市民団体へのメリ

ット・魅力が分かりづらかった。市民活動の側面で見ると、社会実験ができる、規制緩和できる等により、普段できない活動が気軽に、価値があってできるということを分かりやすく伝えていけるとよい。それらが伝わると地域団体が積極的にチャレンジをしていけると思う。

加我会長 パークファンのメリット等が十分に伝えられるように、柔軟に対応してもらいたい。

藤原委員 公園における教育との連携での情報発信、エディブルガーデン・ヤードのような農地としての活用など、公園を教育、農業に活用することが可能であれば、キーワードとして入れていけるとよい。

情報発信に関連して、例えば、パリならシャンゼリゼ通りを「森の中の都市」というブランドとして打ち出して都市間競争に取り組んでいる。大阪の公園においても、例えば御堂筋の国際連携のようなものも含めて取り組んでいき、ブランドイメージを打ち出していけるとよい。

また、公園が多いと、住民の格差の意識が緩和されていく。社会的包摂の観点からも壁面緑化、公園の整備を進めていくことが重要であると思う。

重要な視点の内容については包括的に抑えられているため、それを実施するパワーが必要である。

加我会長 本日の意見は重要な視点に関するものだけでなく、施策に関するものもある。事務局で取りこぼしが無いように整理いただきたい。

山本委員 大阪は橋から見るとみどりの景色がとても良いと感じている。橋から見えるみどりを大阪の魅力として、海外の方にも見てもらえるように考慮していったらと思う。

加我会長 大川、土佐堀川、堂島川等の周辺には古くから公園があるが、これは人々が往来するところから見えるように公園を設置したものである。都市イメージの向上や景観への配慮の観点から、どこから戦略的に緑化していくのが重要である。景観計画における視点場等も踏まえて検討いただきたい。

上野委員 エリアマネジメント活動の一つに景観や環境づくりも含まれている。いかに市民を巻き込んでいくか、という点で見ると、エリアマネジメント自体が市民、事業者や行政により進めていくものである。情報発信もエリアマネジメント活動の一つであり、大阪市としてもエリアマネジメント団体を主役としながら、連携していくのがよい。

エリアマネジメントは地域の価値向上を目的としているものであり、みどりの

価値を客観的にはかるものとして地価や固定資産税をきちんと評価していくことも重要と考える。

10 地区のエリアのみどりが画一的になると面白みに欠けるため、各々のコンセプトを設けて進めていくことが重要である。

加我会長 エリアマネジメント団体から、御堂筋のイチョウについて連絡いただいたことがある。エリアマネジメント団体もみどりが重要だと捉えており、うまくかかわっていく必要がある。

野上委員 ブランドづくり、エリアマネジメントと関連して、大阪市には御堂筋、千日前通り、堺筋、谷町筋、中央大通り等のメインストリートがあるが、その中で御堂筋は明確にイメージが確立されている。一方で、堺筋、谷町筋など、今後みどりのイメージを高めていく必要がある場所もあり、地域の方やエリアマネジメント団体と話していけたらよいと思う。大阪市として財源の関係で優先順位が後回しになっている場所もあるが、そこに地域の方が花を植えるという動きも見られる。そのような方とも連携していくとよい。

事務局 エリアマネジメント団体など、多様な方との連携が大事になってくる。これまで緑化重点地区として、各地区の計画をまとめてきたが、そこにはエリアマネジメント団体との関わりなども含まれている。地域の方と共有し、どう連携していくかが重要であり、今後とも取り組みを進めつつ、個別施策にも反映できたらよいと考えている。

加我会長 地域の方やエリアマネジメント団体が活動しやすいような土台を作ることが重要である。

加我会長 重要な視点として、場所から考えるという意見があった。小規模公園、大規模公園、街路樹、敷地内の緑化などの観点の他、保全配慮計画で保全していく場所等も含め、事務局としてそれぞれを確認していくと網羅していくことができると思う。施策との関連もあるが、全体を見据えた視点と、個別の視点からフィードバックしていくことの両方があると全体の見方も変わってくると思う。

2) 緑化重点地区における緑化等の方針について

《事務局より資料4, 5について説明》

赤澤委員 計画全体に関する意見であるが、緑化重点地区として以前は市域全域を指定するという意見があげられていた。行政の緑化のみを対象とするのであれば、行政として取り組む地区のみを指定すればよいが、近年は民間も含めてどこが緑化されていくか分からないため全域を指定すべき、という意見であった。その他に、全域を緑化重点地区としつつ、それぞれの緑化重点地区を特別地区として二

重に位置付けるという意見もあった。

民間の方の緑化の取り組みを支援するという観点からも、市域全体を重点地区にすることを提案したい。

都市緑地法では、条例を作れば地区計画として緑化義務を定めることができる。新大阪地区について、淀川とみどりをつなげていく上ではそのような観点も必要であると思う。

加我会長 特別地区の考え方は、緑化が必要な場所は大阪市全域であり、その中で特別地区から取り組んでいく、というものである。

緑化地域の指定について、名古屋、横浜、世田谷区などで見られ、例えば、商業系だけ、住居系だけを対象とすることも考えられる。緑化重点地区はいろいろな施策にもつながるため、ご検討を引き続きお願いしたい。

赤澤委員 緑化重点地区と関連して、特別緑地保全地区については社寺・仏閣の緑も指定でき、緑地保全事業、グリーンインフラ事業などの交付金とも関わりがある。

最近では、開発圧により公園が消えてしまうことも多く、本当に大事な場所を守るためにも特別緑地保全地区の指定についても考えていただきたい。

事務局 現行計画の前の計画において、大阪市全域が緑化重点地区となっていた。しかし、緑化重点地区の本来の趣旨として、特に重視すべきという地区を指定するという観点があり、関連計画と整合を取りながら地区を指定してきた。

今後の議論として、いろいろな取り組みを展開する中で、全域を指定するという観点も大事という視点で過去審議している。

今回の審議における緑化重点地区については、現在の地区について諮問している。今後重点地区を広げるかについては次の計画で検討していくものであり、ぜひ議論いただきたい。

特別緑地保全地区についてだが、山間部のみどり等を対象として凍結型の保全を行うものであり、規制をかけて行政が買い取る制度である。大阪市として必要かという点は議論が必要である。幅広い観点からご意見いただきたい。

加我会長 特別緑地保全地区について、保全配慮計画からのつながりがあり、例えば、大阪であれば社寺林、屋敷林等も指定できる。近年の社会情勢では、凍結保存に限らず、適切に保全をしていくというものである。新計画の中で検討していきたい。

加我会長 特徴的な点として、新大阪は屋内外のオープンスペースを活用している点である。関西国際空港や大同生命ビル等、大阪市内でもアトリウムなどの形で屋内の緑化をする事例がある。新大阪は万博に行く方がまず集まる場所であり、屋内緑化も含めて第一印象を高めることが求められる。

夢洲・咲洲・舞洲については、居住、レクリエーション、非日常、エンターテイメントなどに合わせた方針となっている。これらを今後のまちづくりにおける

緑化の方針として定めたい、とのことである。

玉川委員 淀川とつながるみどりのネットワークについて、現況から見るとハードルが高いと感じる。淀川の緑と、それをつなげる街路樹・壁面緑化の現況があるが、目標を掲げたものとギャップが大きい。実現するための方策として、現実的な計画を作っていくことが重要である。

加我会長 関連して、大阪駅の緑化重点地区では大阪駅の北側から淀川につなげるというのがあったが、どのようにしてつなげるものとしていたのか。

事務局 直接的につなげるというよりも、意識として淀川とつなげていきたい、と考えていた。民間の開発時や街路樹等の整備においてつながりを意識しながら展開していくのが重要と考えている。それだけでなく、人の活動等ソフト面も含めてつなげていくものと考えている。

加我会長 新大阪、大阪については緑化の重点を図る意義として淀川を位置づけるのは非常に重要である。グランフロントから見て淀川で大自然を感じられ、魅力となっている。実現性が低いとしても今回意識しておく意義はあると思う。どうやってつなげるかは課題として残るものであり、今後も議論していくことが重要である。

豊島委員 夢洲・咲洲・舞洲について、具体的な実現方法がわからないところがある。基本方針としてここまででよいか、もう少し掘り下げるべきかをお聞きしたい。現状は新大阪と比較してかなり抽象的な方針である。

新大阪については、ぜひ新大阪駅を降りたら緑が広がっているというのを目指してほしい。JRと連携して、コンコースに緑を広げていくというのが望ましい。ゲートウェイとして、降り立った途端にみどりを感じられるように進めていただきたい。

加我会長 北陸新幹線などにより駅の改造も進められており、みどりが広がる広場により第一印象を高めるのが非常に重要である。そのためにも緑の重要性を都市開発が動く前に位置付けておくのが重要である。

夢洲はエンターテインメントの場所として、万博の後も含めて緑化重点地区として緑を位置付けておくことと建築の誘導にもつながる。

加我会長 新大阪、夢洲・咲洲・舞洲についてはこれまでの議論したものを補強したものである。具体的な規制につながるものでなく、大きくどう誘導するかを明示する方針であり非常に意味があるものである。

本日の意見を取りまとめ、次のステップへ充実させていただきたい。

以上